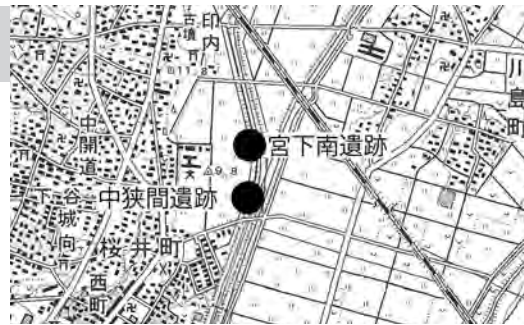


なかはざま みやしたみなみ
中狭間・宮下南遺跡 (本発掘調査B)

所在地 安城市桜井町地内
 (北緯34度55分25秒 東経137度05分58秒)
調査理由 中小河川改良工事
調査期間 令和4年6月～7月
調査面積 120m²
担当者 樋上 昇・池本正明・田中 良



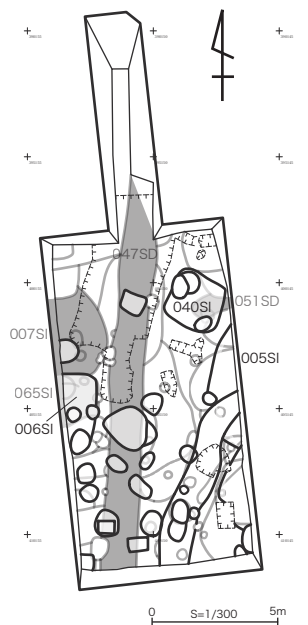
調査地点 (1/2.5万「安城」・「西尾」)

調査の経過 調査は愛知県建設局河川課による中小河川改良工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査面積は計120m²である。遺跡の北側には、当センターによって平成23年度と平成25年度に調査された宮下遺跡がある。

立地と環境 遺跡は、鹿乗川と西鹿乗川が合流する地点で、標高約8mの沖積地上に立地する。周辺には、碧海台地縁辺に沿って古井遺跡群や桜林遺跡・中狭間遺跡・亀塚遺跡が並び、二子古墳や比蘇山古墳などの古墳が作られている。調査地点は、宮下南遺跡と中狭間遺跡の境に位置する。

調査の概要 調査は、にぶい黄褐色シルト層の上面で遺構が検出されたため、この面で調査を開始したが、この面の遺構よりも下位に、沈鉄を多く含む黒色土の埋土をもつ遺構が複数検出されたため、2面目を設定し、再度遺構検出をおこなった。その結果、前者の1面目では灰釉陶器を主体とした平安時代の竪穴状遺構(005SI・006SI・040SI)などを検出し、後者の2面目では、弥生時代終末期から古墳時代の大溝(047SD)や古墳時代の竪穴状遺構(007SI・065SI)などが検出された。

047SD 047SDは、弥生時代終末期の大溝で、掘り方の底面がV字状になる。この溝は、古墳時代に掘り返されており、上層の埋土からは、須恵器の蓋杯が出土している。下層の埋土からは、弥生時代終末期の小型壺や高坏などが出土している。(田中 良)

中狭間・宮下南遺跡の遺構全体図
S=1/300

大溝 047SD 完掘 (南から)



大溝 047SD 弥生土器出土状況



竪穴状遺構 065SI 完掘 (南から)



溝 051SD 弥生土器出土状況 (西から)